

平成 19 年 7 月 6 日
報道発表資料

緊急地震速報利用者協議会

緊急地震速報のロゴマークとピクトグラムの制定について

緊急地震速報利用者協議会（会長：阿部勝征 東京大学名誉教授）では、平成 19 年 7 月 6 日（金）に開催された平成 19 年度定期総会において、緊急地震速報のロゴマーク及びピクトグラムを制定しました。（当協議会は、平成 18 年 12 月 8 に設立され、本年 7 月現在、101 の法人が加入している。緊急地震速報利用者協議会の概要等については、協議会のホームページを参照）

ロゴマーク（別紙 - 1）

緊急地震速報の性格上、緊迫感を持ちつつも広く親しみやすいデザイン
のものを 2 種類制定した。

一つは、柔らかなイメージで、マスコットキャラクター的な使い方も念頭に入れ、広く国民に親しみをもって連想的な理解が得られることを意図しており、緊急地震速報の説明や紹介をする場合の使用を想定している。他の一つは、緊急地震速報対応施設の表示等に代表されるフォーマルな使い方を想定している。

ピクトグラム（別紙 2）

緊急地震速報に接した際の対応行動を図式化し、単純・明快かつ直感的に視覚に訴えるものとした。その作成にあたっては、「緊急地震速報の本運用開始に係る検討会」の報告書にある「緊急地震速報利用の心得」のなかの「周囲の状況に応じてあわてずに、まず身の安全を確保する」にかかわる主要な 8 つの対応のコンセプトを図式化した。

家庭においては

- ・頭を保護し、大きな家具から離れ、丈夫な机の下などに隠れる。
- ・あわてて外へ飛び出さない

不特定多数の者が出入りする施設においては

- ・あわてて出口・階段などに殺到しない。

屋外においては

- ・ブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒に注意し、これらのそばから離れる。
- ・ビルの壁、看板、割れたガラスの落下に備え、ビルのそばから離れる。

乗り物で移動中においては

- ・自動車運転中は、ハザードランプを点灯するなどして、周りの車に注意を促したのち、急ブレーキはかけずに、緩やかにスピードを落とす。大きな揺れを感じたら、急ハンドル、急ブレーキを避けるなどできるだけ安全な方法により、道路状況を確認して左側に停止させる。
- ・エレベーター利用中は、最寄りの階で停止させ、速やかにエレベーターから降りる。

本ロゴマーク及びピクトグラムの著作権は制作を担当した（株）電通に帰属し、また意匠権については（財）気象業務支援センターに留保される。

これらのロゴマーク及びピクトグラムは、緊急地震速報利用者協議会会員の使用はもとより、気象庁をはじめとする関係機関や団体等での広範な活用により、緊急地震速報の認知度の向上や大きな揺れが来る前の適切な対応行動の啓蒙等を通じて、地震による被害の防止・軽減につながることを期待したい。

なお、報道用として本報道資料(ロゴマーク及びピクトグラムのPDFファイルを含む)を、緊急地震速報利用者協議会のホームページ(<http://www.eewrk.org/>)にも掲載した。

本件及びロゴマーク及びピクトグラムの使用等についての照会先：

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-4 気象庁内
（財）気象業務支援センター 配信事業部

加 藤 芳 夫 （緊急地震速報利用者協議会事務局担当）

TEL:03-3215-2205

FAX:03-3215-2220

E-mail katou@jmbsec.or.jp